

平成二十九年四月一日発行(毎月一回一日)
書象 第六十五卷 第四号 通卷七三七号

書象



日本書道芸術協会

2017-4

新学年 前進を期待する

副理事長 二瓶 嶽 風

学生部のみなさん、入学、進級、そして進学おめでとうございます。新学期を迎え、新たな気持ちで勉強やクラブに頑張っていることと思います。

新年度にあたり、皆さんには新しい気持ちで『書象』誌の課題に取り組んでいることでしょう。今年度は、例えば「段」や「特待生」を目指して頑張るなど、どんな小さなことでもよいですから、はっきりとした目標を決めて取り組み、一生懸命練習に励んでください。さらなる前進のために、その意欲と不断の努力を積み重ねていきましょう。

そのためには、例えば、今まで信じてやってきたことでも、よく考えてみると自分に都合の良い方向に解釈して進めていることがないかなど、全てにわたって総点検することも大切かもしれません。

次のような基本的なことを確認してみましょう。

一、姿勢―背筋をしっかり伸ばして、重心が腰に入っていますか。正しい姿勢が健康にも良く、自分の気持ちを筆を通して表すのに、とても良いはずです。

二、筆の持ち方―小さい文字を書く時は指を一本かける《一本がけ》、大きな文字を書く時は指を二本かける《二本がけ》。指先を通して自分の強い気持ちが入るように、しっかりと筆を握りましょう。

三、腕の構え方―机から腕を離して書く《懸腕法、けんわんほう》。机に腕を軽くつけて書く《提腕法、ていわんほう》。文字の大きさに応じた構え方で、腕が自由に大きく動くようにしましょう。

四、筆遣い《起筆・送筆・収筆》―特に、筆の入り方が正しい方向で力強く打ち込み、いきおい良く運びましょう。また止め方もしっかり押さえていますか。そして、一点一面に心をこめて書きましょう。

五、正しい筆順―書き順は漢字の長い歴史の中で、整った文字が書けるように決められてきました。もしかすると思いきみで間違った筆順で書いていませんか。もう一度確認してみましょう。

六、文字の組み立て方や形がどうなっているのか、また、点や画の長さ・方向、接し方・交わり方などに心を配って見ることも大切です。

さあ、「さらなる前進」を目指して頑張りましょう。大丈夫、貴方ならきっと出来ます。自信をもってぶつかろう。



第55回記念書象展 学生展の講評

蒼
蘆

似
酒
百

酒に似て百花蘆あしず

4月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

行書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

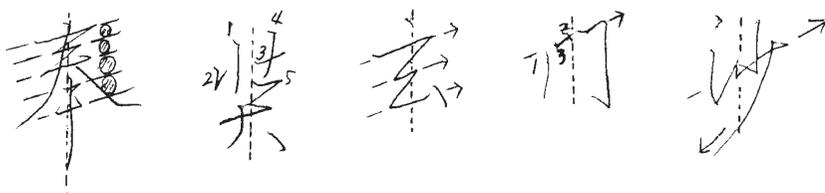
集王聖教序

上條信山先生書

沙門玄奘奉

沙門玄奘奉る

・軽やかな運筆で伸び伸びと書きたい。行の中心、横画の角度をほぼ統一させて、たでの流れを出したい。



4月20日必着
出品券を貼付



- ・文字の中心に気を付けて書く。
- ・空間を意識して、伸びやかに書きたい。

「蜜」

ウかんむりは、少し右上りに。六画目は長く、やや丸みをもたせる。筆順は図版数字の通り。



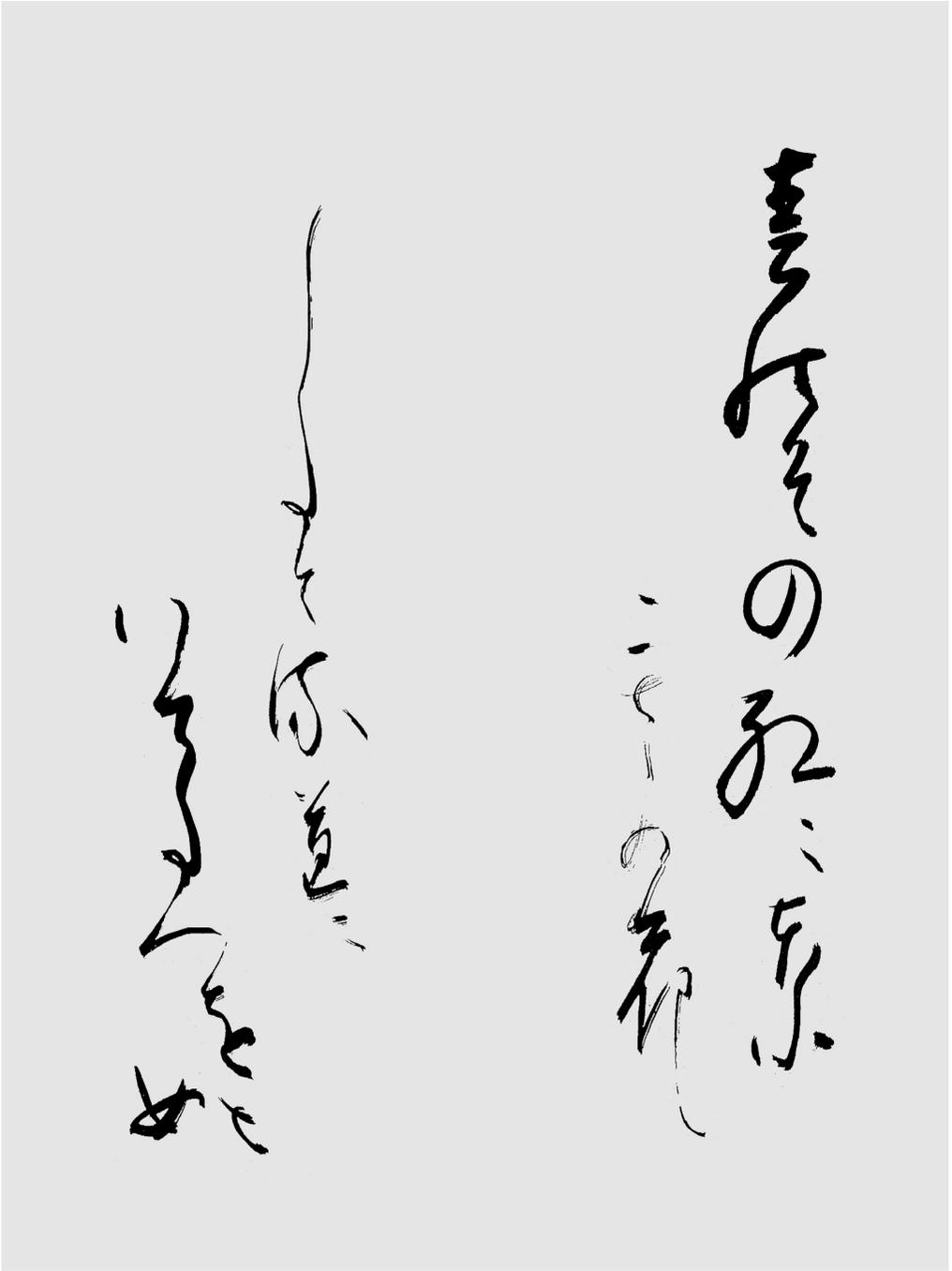
「多」

書き出しは中心から書く。文字の中心に気をつけ、線の方向は左下に向い、ほぼ平行にし、払いを伸びやかに。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

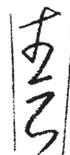
上條信山先生書



春の(能)その紅に(二)ほ(本)ふも(毛)ゝの花した(多)てる(流)道に(二)いでた(多)つをとめ
(万葉集)

- ・運筆の速度に変化をつけ、リズム良く書く。
- ・連綿線が弱くならぬよう、筆先の弾力を意識する。
- ・文字の概形をしっかりと捉えたい。

【春】



【も】



【花】



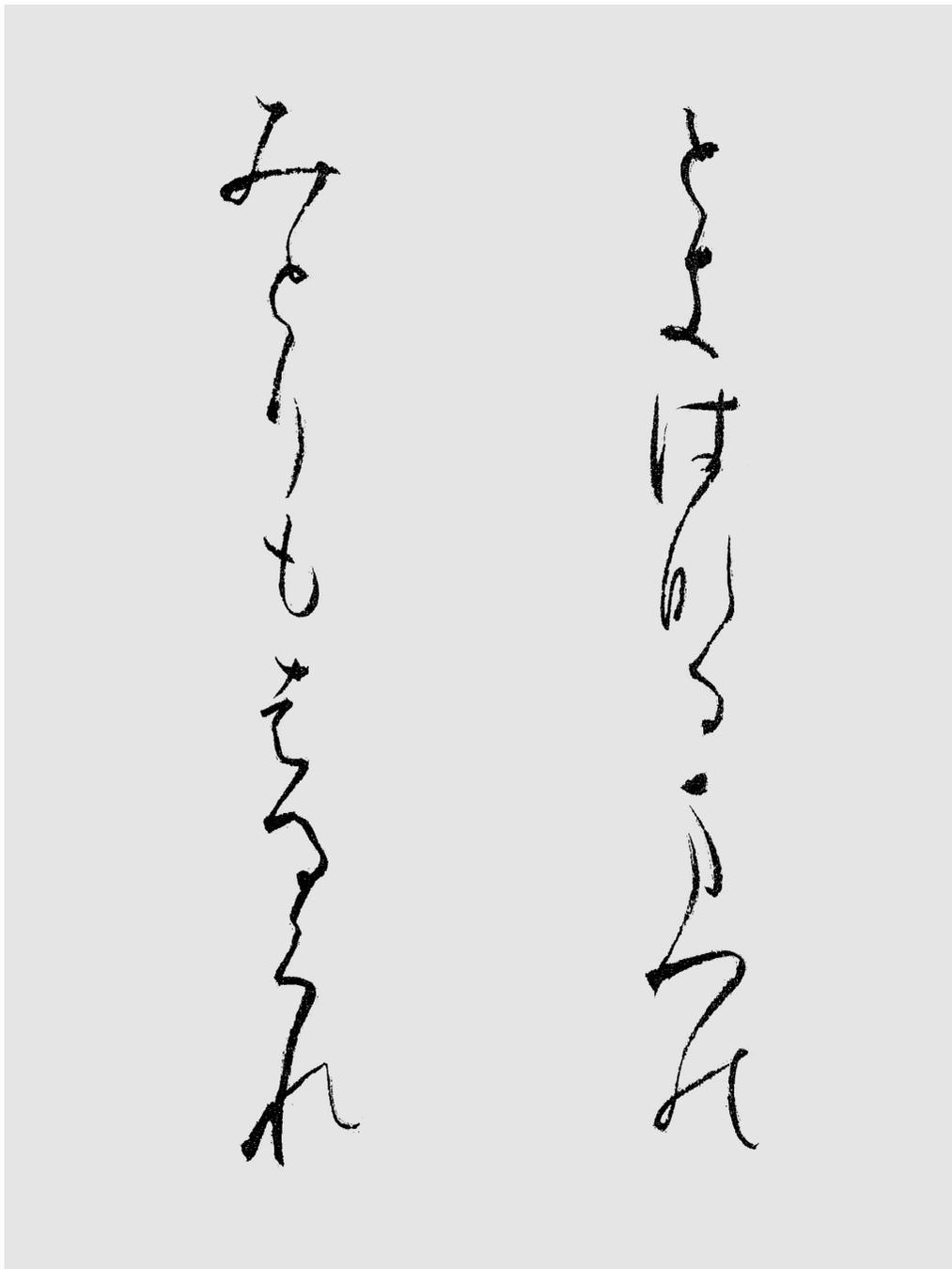
【道】



4月20日必着
出品券を貼付

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



とき(支) はな(那) るま(万) つの(能) みどりも は(者) るくれ

・二文字、三文字、四文字連綿をうまくつなげて和歌上の句を完成させる。下の文字が中心に対してやや右寄りのものもあるので、注意する。



が つ に ち よ う び ()

		馬		形		北
		埼		宮		海
支		玉		城		道
部		千		福		青
		葉		島		森
書		神		茨		岩
象		奈		城		手
太		川		栃		秋
郎		山		木		田
		梨		群		山

北海道 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬
埼玉 千葉 神奈川 山梨

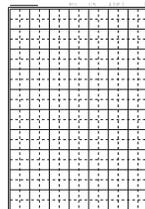
4月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

・実用書の研究です。
用紙は半紙でなく、

「こくこ」10マス十字リーダー入りのノートを使ってください。
十字リーダー（点線部分）を活用して、位置を正確に習ってください。



・四行目は、出品者の支部名と姓号を書いてください。

漢字条幅規定【条規】

田中節山先生書

段級位を明記のこと



春江百花深し (王錫之の句)

書き方のポイント

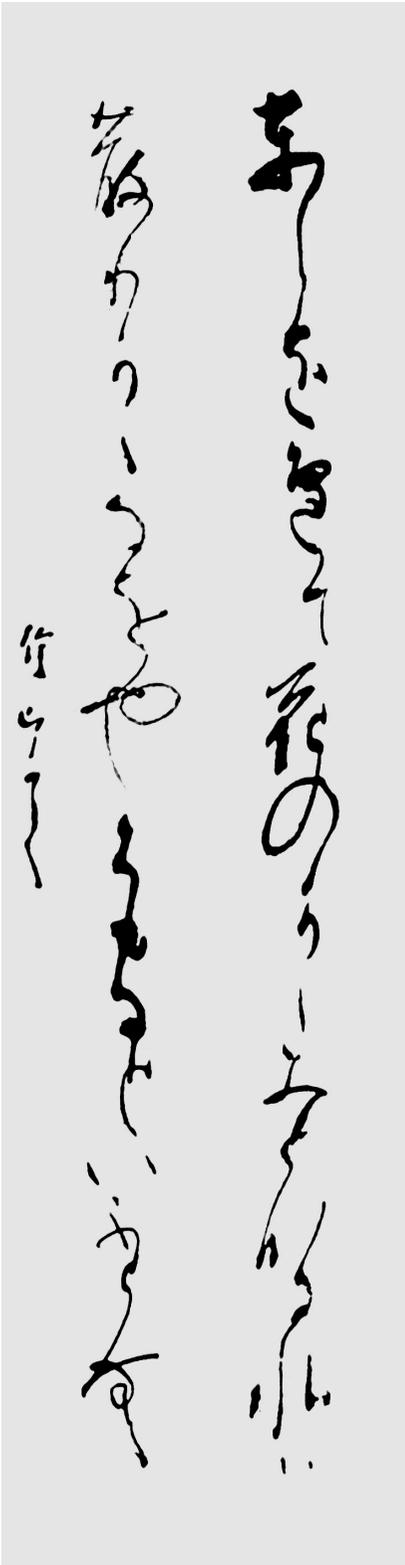
- ・ 一行のリズムを生むために文字に大小長短の変化を与える。
- ・ 点が九個あります。軽量強弱の変化も工夫してみてください。

仮名条幅随意【条随】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



と(東)しをへ(邊)て花のか(可)が(と)みとな(那)る水は(八)散り(利)か(可)か(と)るをやく(久)もるといふらむ(無)

- ・ 腕を大きく動かしてのびやかに。墨色の変化もつきたい。
- ・ 三字、四字、五字連綿を十分練習したい。
- ・ 「と(東)」「へ(邊)」「ふらむ(無)」P14参照。

空羽
港田

中学一年規定 【学毛】

樋口玄山先生書

仕安
事金
子

中学二・三年規定 【学毛】

中村巍山先生書

小川の石の

小学五年規定 【学毛】

柳澤玄嶽先生書

陽注光く

小学六年規定 【学毛】

狭田光山先生書

心から
く

小学三年規定 【学毛】

小淵石峯先生書

大友音
共

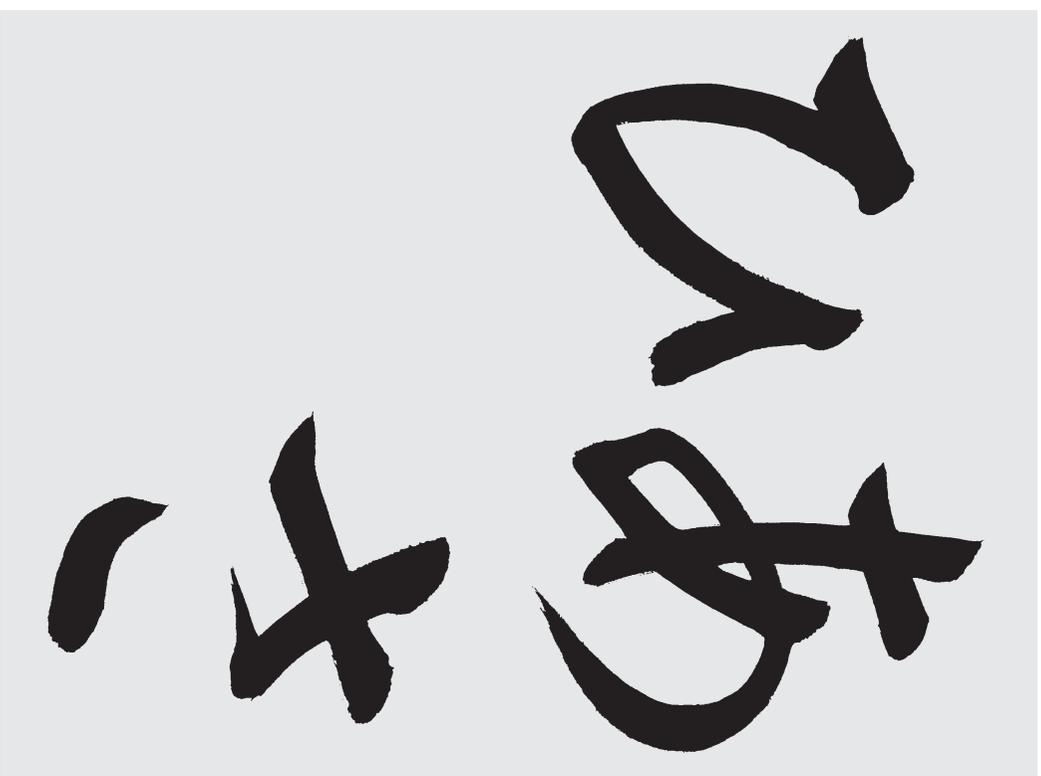
小学四年規定 【学毛】

芦川臨泉先生書



小学一年規定 【学毛】

杉山曉雲先生書



小学二年規定 【学毛】

竹内墨洋先生書

硬筆規定

寒かった年には(八)樹木はよく茂る人は逆境にきたえられることによつていよゝゝ成長する。
 一般規定【二硬】(師範・準師範・段位) 上條 信山 先生書

寒かった年にハ樹木はよく茂る人は逆境にきたえられることによつていよゝゝ成長する。
 ようていよゝゝ成長する

一般規定【一硬】(級位)

二瓶 嶽風 先生書

野川を歩くと大沢の里、そしてワサビ田をはじめとした水辺の景色も楽しめる。

中学規定【学硬】

山口 啓山 先生書

苦労や痛い体験を幾度も重ねる中で、何事にも動じない堅い心が育って行く。

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小一・二年学	川	小三・四年学	空
小五・六年学	草木	中学	気候

手本解説

基本「似酒百花醺」は左図参照。

似酒百花醺

硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「えられ」「ことに」は左図参照。

えられ ことに

・仮名条幅随「と(東)」「へ(邊)」「ふらむ(無)」は左図参照。

と(東) へ(邊) ふらむ(無)

学生部規定

安 全 な 仕 事
「安」は六画目を長くして形をとる。「全」は左右の払いの長さ、角度を意識する。「な」は中心に結びを書く。「仕」は上の横画を長く、縦画で二等分する。「事」は六画目を最大幅に、横画は等間隔にする。

中学二・三年

羽 空 田 港
「羽」の三、六画目は右上へはらうのが基本形。「田」は内部の余白を等間隔に近づける。「空」は冠を最大幅に。最終画は長めにしてバランスをとる。「港」は左右の払いを広げて「巳」を小さめに書く。

中学一年

春の季語「山笑う」とは、山の
草木が芽ぶいて明るくなる
様子を言います。

名前 支部 年 級段

新しいクラスにむけて
のもくひようは、みんな
なかよくです。

名前 支部 年 級段

り	が	こ	う
ま	ま	い	の
し	ん	か	い
た	か	い	さ
		に	く
		な	ら

なまえ 支部 年 級段
きゅう

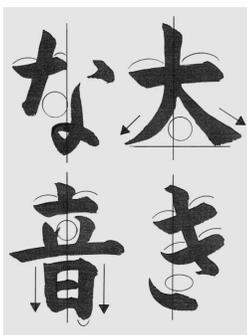
※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさ↓たて18cmよこ7cm 小一・二課題↓2.1cmのマスキの紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。



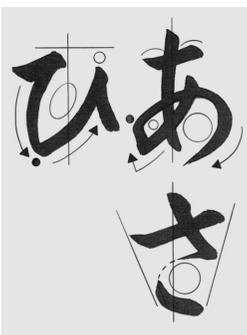
小学六年

「注」は余白に留意して点画の間と方向に注意。「陽」は濁点の位置、角度も重要。「陽」は偏旁の大小、組み合わせを観察し、横が狭くならないように「光」の最終画は曲がり、柔らかく丸みをつける。



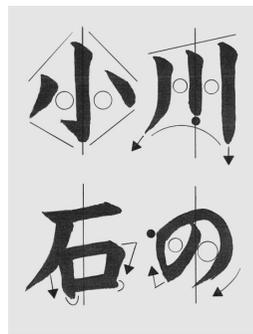
小学四年

「大」の二画目は横画と交差してから左に向かう。「音」の三画目は二本の横画を等分割する。「音」は一、二画目の交わる位置に注意。「音」の五画目を長くしてバランスをとり、二本の縦画は垂直に書く。



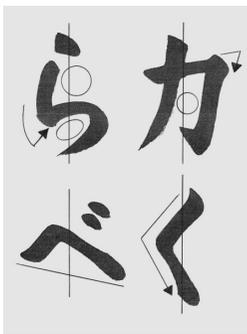
小学二年

「あ」の二画目は左にふくらむ。大回りの線は横広に。「さ」は二、三画目の筆脈を意識する。「ひ」は始筆↓折れの後は外にふくらむような意識で連筆する。



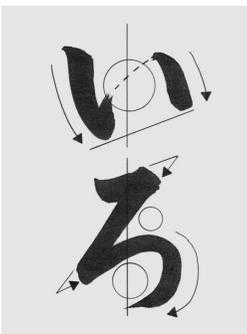
小学五年

「川」は縦画を等間隔に、終筆の筆使いの違いに気を付ける。「の」の始筆は中心から。余白の広さに注意する。「小」は縦画を中心に、左右をほぼ対称に書く。「石」の二本の縦画は互いに内側に向ける。



小学三年

「力」のはねは二画目に向かうように。「く」は中心より右から書き始める。「る」の二画目は左にふくらむようにする。「べ」の一画目の最上部は中心より左にくる。



小学一年

「い」は横広の形を意識して、向かい合う線の角度にも注意する。二画目はやや短く書く。「る」の概形は三角形に。折れる方向と筆使いを意識して丁寧に書く。

古典研究シリーズ 406 【古典】

書譜 唐六八七年

孫過庭 (六四八? ~ 七〇三年?)

書き方

- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
 - ② 続き文字でなくても構いません。
 - ③ 落款を入れて下さい。
 - ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。
- 古典研究の出品券を貼付して下さい。
(編集部)

今月のテーマ

写実的臨書 中字 (四〜六字)

字形・書風の特徴

- ① 前傾姿勢 王羲之にもよく見られますが、脚部を右に寄せて前のめりに構えて、動態につくる文字を多く見受けられます。
- ② 力の均衡 一字の中心軸から左右へ張り出す画の絶妙なバランス感覚を有しています。
- ③ 頭部大、脚部小、低い重心 一字の中で、上部を広くとり、下部を引き締め、バランスをとっています。
- ④ 右回転の画 右回転の画に特徴が見られます。筆の大きな上下運動により、弾力を持って回転させ、広い空間をつくっています。
- ⑤ 断筆 転折で一度筆を離すようにし、改めて次の画へ打ち直すことをいいます。十七帖に見られる筆法ですが、書譜にも時に応じて使われ、これにより流れも引き締まり、精彩のあるものになっています。
- ⑥ 節筆 先月号でも説明しました通り、料紙を巻き折りにして折り目をつけた部分に筆が当たって、竹の節のような形をした筆致が随所に見受けられます。



〈釈文〉張。鍾當抗行。或謂過之。張草猶當雁行。然張精熟。池水

「硯上の塵」を読む54

「硯上の塵」も、いよいよ最終章となります。上條先生の人生における最大の影響者、宮島詠士先生が若き日に清国直隸省（現在の河北省）保定府にある張廉卿を訪ね門人となり、日夜師の膝もとで筆硯に専念したという話は、第四章で紹介しました。先生にとっての中国は、特別のもの、あこがれの地だったのです。

第十章 中国と私

1. あこがれの大地 ①

書道にかかわる誰もが、中国には特別な愛着を持ち、一度ならず二度、三度と訪中を重ねているが、私もご多分にもれず、はやその回数二十回に達することになるうか。それというのも、中国は宮島先生が若き日に張廉卿のもとで学んだ地であり、張廉卿そして宮島先生によって築かれた書法芸術をいささかなりとも継承することを任ぜられている私には、中国は誰にもまして強いあこがれの地であり、私の心の中にこの文化伝承に対する一種の使命感が存在していたからに他ならない。

一九七七年（昭和五十二年）の秋十月、全国書美術振興会の主催による第二次書家訪中団の名誉団長（団長津金孝邦氏、団員二十五名）として大任を帯びて、私は初めて中国の大地に立った。北京、洛陽、西安、鄭州、上海の各地を、二週間をかけてめぐり、ゆったりとした旅程であった。

当時の中国はようやく文化大革命の嵐が去り、華国鋒主席、周恩来首相の新体制にあり、とくに周恩来首相が中国人民の信望を一身に集めていた。今では中国は改革開放政策により、誰もが簡単な手続きで自由に旅行できるが、その頃は一般的な観光は認められておらず、国

家間の親善の使者として、中国政府から許可を得なくてはならなかった。旅行中は一切の単独行動が許されず、ほんの少しホテルから出て散歩することすら厳に禁じられていた。

そんな緊張を要する窮屈な旅行であったが、見るものすべてが初めてのことであり、五十年來の願望がようやく実現したわけで、印章強さには格別なものがあつた。北京では天安門広場のあまりの広さに目を見はり、天安門から入る豪華華麗な故宮博物院では、かつてこの大宮殿を舞台として展開された明朝王朝に思いをはせた。故宮の一角にある清朝最盛期の皇帝であつた乾隆帝の、三希堂と呼ばれる書齋に足を運ぶと、中国側の御好意によって三希堂ゆかりの名跡が準備されており、漱芳齋と呼ばれる一室において、陸機の平復帖、王献之の中秋帖、王珣の伯遠帖、歐陽詢の卜商帖、虞褚臨の蘭亭序などの真筆を直接かつ存分に拝見させていただいた。平素から図版で親しんできたこれらの名跡中の名跡を目のあたりにして、感嘆また感嘆の連続であつた。

洛陽では待望久しい龍門石窟を訪ねた。龍門山前方を伊水が清くゆつたりと流れ、さらにその向こうに香山を望見する。龍門山全体を埋め尽くした大小無数の洞窟と十萬体といわれる石仏を一望し、その仏教が生み出した神秘と偉容にただ圧倒され、しばしの間呆然と立ちつくしてしまつた。古陽洞に入つては、夢に求めた龍門二十品中の数々を刻した壁面に手を触

龍門石窟内



れることができた。書を志してより五十年、拓影でしか見られなかった北魏の書の精華が素顔のパノラマとなつて私の眼前に展開しているのである。

平成二十九年度書象会総会・新年会

とき 平成二十九年一月二十二日(日)
ところ 東京・京王プラザホテル「コンコードボールルーム」



市澤理事長の年頭所感



田中会長による乾杯



上條節夫様をまじえての鏡開き



華やかな会場の様子



おいしい料理に舌鼓を打つ



総会 議長は荻田光山常任理事



総会 吉澤・長谷川監事が監査報告



本部の先生方が揮毫された色紙が
抽選で当たります



「色紙当たりました、うれしいわ!」



上條信山先生のレプリカ色紙



上條貞子様 小坂憲次様へ黙祷を捧げました



日展新入選のお二人



「清冽な信山書法をもっと
深めましょう」と閉会の弁
中村巍山副理事長



謙慎書道会展で特別受賞の皆さん



読売書法展で特別賞受賞の皆さん



審査会員昇格者の皆さん



通信条幅研究会で表彰を受けた皆さん



無鑑査会員昇格者の皆さん



無鑑査会員昇格者の皆さん

平成二十九年 度

書象会昇格者

平成二十八年 度第五十五回書象展審査結果により、左記の通り書象会昇格者が発表されました。ますますのご活躍を期待いたします。

上段の写真は新年会で紹介され、委嘱状を受けた後の記念スナップです。

審査会員 6名

有馬 花嵐 神谷 蘭月 佐藤 京香
高瀬 秀琴 濱田 龍雲 柳澤 雪葉

無鑑査会員 35名

赤見 陽松 荒木 楓月 石本 梢陽
伊藤 水玉 今福 揚光 岩月 彩紅
上田 悠翠 鶴浦 湖山 大前 湖泉
大和 恵星 川口 敬玉 菊池 龍節
清武 浄山 来司 信博 斉藤 汀香
坂井 蒼峯 篠塚 葉暁 白倉 貞泉
須藤 香園 滝澤 葉猛 田淵 佐美
永田 清節 野口 節風 馬場 采葉
早川 雅節 深瀬 高雲 増山 幸子
藤井 静素 本間 清葉 吉野 景花 城峯
森島 美光 柳澤 景花 吉野 景花
吉田 雅染 桃彩

平成二十九年書象会授号式

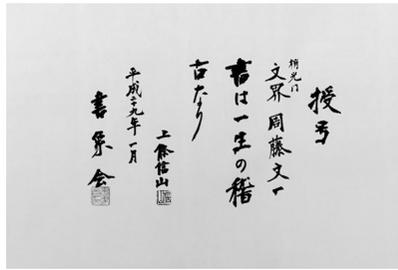
とき 平成二十九年一月二十二日（日）
 ところ 京王プラザホテル四十七階「あけぼの」



市澤理事長の激励の言葉



授号証授与



授号証



授号者代表の言葉 周藤文界氏



閉会の辞 樋口玄山副理事長

新授号紹介

一月二十二日の書象会新年会に先立ち、恒例の授号式が開催されました。おごそかな式典の中で授号証を手にした皆様には、これまでの御精進に敬意を表し心よりお喜び申し上げます。授号された皆様をここに紹介いたします。（編集部）

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 小見 楽明 | 柳澤 華葉 | 藤岡 閑雲 | 樋口 玉雪 | 畑中 江惠 | 西野 眉月 | 中村 麗峰 | 麗陽 白麗 | 麗陽 麗艸 | 香節 節節 | 田中 董節 | 高田 雪下 | 高田 律心 | 邀月 玉袖 | 片山 律心 | 杉山 文一 | 大澤 文一 | 市澤 美静 |
| 心門 和華 | 玄華 和華 | 月華 和華 | 玄山 和華 | 高山 和華 | 野山 和華 | 村山 和華 | 麗峰 和華 | 麗艸 和華 | 節節 和華 | 董節 和華 | 雪下 和華 | 律心 和華 | 玉袖 和華 | 長南 玉袖 | 周藤 文一 | 文一 文一 | 長谷川 美樹 |
| 尾身 若菜 | 権田 幸子 | 山中 真知子 | 服部 佐和子 | 佐藤 美恵子 | 福里 まゆみ | 武田 基秀 | 川久 保弘美 | 是常 紀子 | 阿相 理沙 | 神谷 志緒里 | 山田 光重 | 伊吹 佑子 | 長南 満里子 | 前田 百合子 | 文一 文一 | 文一 文一 | 三和実 輝子 |
| 宮寺 啓光 | 珠久 珠久 | 彭玉 彭玉 | 日比野 琳 | 竹本 皓草 | 武井 辰玉 | 高橋 桃紅 | 桃芳 桃芳 | 桃芳 桃芳 | 小峯 秀羽 | 秀映 秀映 | 秀映 秀映 | 秀映 秀映 | 桑島 秀雪 | 桑島 秀雪 | 上條 奏竹 | 鎌田 玉蘊 | 金田 玉蘊 |
| 村野 則子 | 藤木 久恵 | 宮田 愛子 | 作田 豊子 | 宮本 奈江 | 小森 公子 | 鈴木 千恵子 | 島田 千鶴 | 島田 千鶴 | 染谷 伊勢子 | 保坂 美帆 | 石川 美帆 | 大場 里奈 | 河辺 里奈 | 河野 竹子 | 大原 志志子 | 三和実 輝子 | 三和実 輝子 |

実技講習会「第五十六回書象展の作品を作ろう」

期 日 二月十一日(土)
会 場 武蔵野スイングホール
講 師 樋口玄山先生

始めに、講師の樋口玄山先生の作品を見ながら、上下の文字を意識しながら書くだけでなく、左右の文字の中心を通して作品作りをすることが肝心であるとお話をお聞きしました。

その後は、参加者はそれぞれの作品に取りかかりました。私のお手本と画仙紙サイズが合っていないとの指摘を受け、その場でお手本を書いていたいただきました。先生は筆と紙、墨も私の物をそのまま使って書かれました。上手に書けるかどうかは、使用する用具によるものではないことを改めて実感いたしました。先生は、私が思っていたよりもたっぷりと墨をつけた筆で、力強く速い運筆で書かれたので、驚きました。

参加者の作品は、書体も文字数も様々でしたが、先生が一人一人丁寧に指導され、またその場で書いてくださるので、大変勉強になりました。

あっという間の六時間で、今後の作品制作への糧をたくさんいただきました。ありがとうございました。

(小菅裕美記)



作品の作り方の話



真剣に聞く受講者



見ることも勉強です



広い会場でのびのびと錬成

TOKYO書2017 公募団体の今

会期 一月四日(水)～十五日(日)
会場 東京都美術館

この書展は、将来の日本の書芸術を担う作家が作品を通して相互に刺激しあうことで、書壇へ新風を吹き込み、全体の更なる活性化に繋がることを目指している。そして、謙慎書道会、書象会から柳澤玄嶽氏が選ばれた。

一月四日、オープニングに行った。初日とあって入口は黒山の人だかり、なかなか前に進めない。まず観たのは玄嶽先生の抑揚のある力強い作品。360×97cm二聯で三十二文字である。信山バリと顔法を基調にして明清の古典との融合を図った作品。「TOKYO書2017」の冒頭を飾ることになった。二作目は、先生が信山流の習得のために若い頃より研鑽してきた細字の作品。隣の大字作品に比べてその繊細さと、一六〇〇字という多字数作品は圧巻であった。見上げて文字数を数えている人もいた。三作目は、360×97cmで二聯に八文字。信山バリの特徴である大字作品。ダイナミックな造形表現の集大成であった。書象会の基本理念である「古典を尊重し、古典に学び、古典に立脚した学書の姿勢」を踏まえた現代に即した書を見事に発表された。

(柳澤雪葉記)

驚才風逸 壮志煙高 各三六〇×九七



日本書道ユネスコ登録推進に向けて



推進運動ロゴマーク

デイサービスの活き活き書き初め
期日 一月十九日(木)
会場 大津市上田上デイサービスセンター

高齢化社会での生涯学習の活動として実施している毛筆書道教室でも、一月の事始めは「書き初め」で始まります。八十歳を超えるお年寄りたちは「小学校以来やー」と話しながら、楽しそうに書いています。皆さんの書かれた作品は、どれも一人一人の人生を映したような個性豊かなものです。

お年寄りが、書き初めて季節の節目を楽しむ様子の中に、日本の文化を垣間見て、この文化を広く子どもたちに伝えつぐ意義を感じています。

(鎌田杉月記)



熱心に取りくむ皆さん



良い作品ができましたね

書き初め・条幅作品講習会

平成二十八年十一月二十六日（土）
於 松本市美術館講座室

恒例行事となった書き初め講習会に、今年も五人の小・中学生を引率して参加しました。小さな書道教室の生徒たちは、いつもとは異なる環境で、見知らぬ仲間の視線を感じつつも、緊張感を克服しながら懸命に筆を運んでいました。教え子たちのささやかな成長を確認するひとときです。

高校生八名、中学生二名、小学生十二名、引率者等十五名で広い講義室は熱気に包まれ、あっという間の三時間でした。竹内墨洋先生・寺尾碩雲両先生の温かく、適切なご指導によって、生徒たちが自信をつける最良の機会となりました。心地よい疲労と満足感で、帰路の車内はいつになく静かでした。講師の先生方、ありがとうございました。来年もまた参加したいと思います。

（鈴木花照記）



竹内先生の細やかな指導



一生懸命書けました！

藤森博士の漢字表記にも申す⑧

書道学博士 藤森大節

おとし、第一五三回芥川賞に『火花』という作品が選ばれました。作者が人気芸人ということもあり、大変話題になりましたし、最近ではドラマ化もされました。

突然ですが、この「花」の「匕」の一画目を皆さんはどのように書いているでしょうか？学校では、右から左下へ「はらい」として学びます。では、「比」の右側はどうでしょう。この場合は、左から右へ「横画」として習ったと思います。よく似た形の「花」と「比」ですが、このような書き方の違いは古くからあったようです。

しかし、現在では「花」も「比」も「どちらの書き方をしてもよい」となっています。おなじみの「許容される書き方」です。常用漢字表の「字体についての解説」には、点画の方向について、いろいろな書き方が示されています。例えば、「風」（三画目が左払いでも横画でも可）や「言」（一画目が短い横画でも、縦画でも、点でも可）などです。ただし、少しの違いで全く別の漢字になる場合があるので注意が必要です。（「干」と「千」、「天」と「夭」など）

話を「匕」に戻しましょう。実はこの一画目の書き方にはとても重要な意味があります。それは「許容してはいけない」ほど、大きな違いを生むのですが、今月はここまで。この続きはまた次回にお話ししたいと思います。

正師範紹介

書は一生の財たか。



中勢支部
山本桂富

この度は正師範の認定を頂き有り難うございます。
平成十七年十二月よりお手本を頂き始めさせて頂きました。
森桂香先生の「ふみちゃん上手になった」この言葉に励まされ
助け頂き10年間続けてこられました。感謝の気持ち一杯で
す。今は桂香先生と同じ年の母に少しづつ手がかり介護が
必要となって来ました。家庭と母の介護を両立して習字を書
いて行く事になり、「書は一生の稽古」と言われていた先生の
お言葉を思い出しながら、マイペースで頑張っています。
今後とも御指導の程宜しくお願い致します。

感謝



若竹支部
高橋太一

始めて「書家」誌と出会ったのは高一の時、小林光月先生
の書道教本でした。一年間、書の楽しさを教えて頂き感謝し
ております。その後、家業を継いで長い間、中断しておりま
したが、数年前より、虎井曉鐘先生に学び始めて、この度は
正師範のお許しを頂き、本当に有難うございました。ここま
で来る事ができましたのも、先生の熱心な御指導と、励ま
しのお陰と感謝申し上げます。これからも、信山流の出会い
に感謝しつつ、頑張りたいと思います。虎井先生には、御健
勝で、又これからも、引き続き御指導の程、宜しくお願い申
上げます。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

特待生になって



美二支部 中二
廣中 晶

私は、小学校三年生から、習字を始めました。中学
生になってからは、部活が始まり、習字を練習する時
間が減ってしまいました。今回特待生になることが
出来とても嬉しいです。これからは頑張っていきたい
です。
支部長先生より一言 中学生になり、部活で忙しく練
習が思う様に出来なかったけれど良く頑張りました。
特待生おめでとう。



柏心支部 中三
柏木ひより

「中学卒業までには!!」と習い始めた時から先生に、
言われていたので、何とか合格する事ができてとても
嬉しく思います。先生や家族のおかげで特待生をとる
事ができました。感謝の気持ちでいっぱいです。
支部長先生より一言 特待生合格おめでとう。部活と
の両立大変でしたね、よく頑張りました。夢に向かって
前進して下さい。

感謝!!

憧れの存在



新城支部 中三
越村成希

今まで、ずっと憧れの存在であった特待生になるこ
とができとても嬉しいのです。僕はこれから憧れる側で
はなく憧れる側となるので、更に頑張っていきたい
です。いつか教えられるぐらいの腕前になりたいです。
支部長先生より一言 合格おめでとう。高校生になっ
ても続けられるとのこと嬉しく思います。今後の躍進
に期待します。

感謝



折原支部 中二
秋保春花

書道始めて七年。大好きで続けていた書道で、特
待生になることができました。とても嬉しいです。特
待生になることができたのは、折原先生のおかげです。
ありがとうございます。これからもよろしく願いま
します。
支部長先生より一言 特待生合格おめでとう。いつも
真摯に取り組んだ成果です。これからも更なる飛躍を
期待します。



有穂支部 中二
宮原綾美

私は小学一年生から書道を始めました。途中からお
稽古を休んでしまいう事が多くなり、一度やめようと思
いましたがこれまで続けてこられたのは先生のおかげ
です。これからも上手くなれる様、頑張りたいです。
支部長先生より一言 オークストラではパーカッショ
ン。リズム感の良さは、書道でも役に立っています。
将来有望!

特待生

念願の特待生



有家虹支部 中三
山下紗弥佳

小三から書道続けて来て、今回、毛筆で特待生に
なる事が出来とても嬉しいです。厳しい吹奏楽部の帰
宅後、遅くまで指導してくださった先生、家族の支え
のお蔭です。本当にありがとうございます。
支部長先生より一言 真面目に努力した結果です。紗
弥佳さんおめでとう!! 感謝の気持ちを忘れずにこれか
ら頑張ってください。

感謝



飯山支部 中三
清水満衣

毛筆に続き、硬筆も特待生になることができ、とて
も嬉しいです。部活や勉強との両立は大変だったけれ
ど、諦めず続けてきて良かったです。先生、今までご
指導ありがとうございます。本当に感謝です。
支部長先生より一言 合格おめでとう。いつも静かに
黙々と練習しています。努力をすれば結果が着いて来
ますね。頑張ってください。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



先生に感謝

美苑支部 中三

井上 佳保

小学校の時に習字を始めました。受験で休んだりもしましたが、続けてきて本当に良かったと思っています。無事に合格できてとても嬉しいです。教えて下さった先生に感謝して、これからも続けていきたいと思えます。

支部長先生より一言 活発で明るくお茶目なあなたんが立派に成長して感無量。特待生合格おめでとう！今後とも期待大です！！



感謝

皓花支部 中二

渡 辺 紗 衣

硬筆も特待生になれてうれしいです。今まで手本を見ながら、ていねいに書くことをがんばってできて良かったと思います。また、周りの人達のおかげでもあると思うのでそれに感謝してこれからもがんばりたいです。

支部長先生より一言 やったね紗衣ちゃん、二冠ですネ！！いつも丁寧な心のこもった作品を仕上げています。おめでとう。



感謝

飯山支部 中三

米 持 菜 香

毎回、段がある度に自分が成長出来ていると思えて嬉しかったです。特待生はその数倍嬉しくて、もっと上手になりたいと思います。良い書が書けるように、更にならばいいと思います。

支部長先生より一言 合格おめでとう。しっかり者で、何事も納得するまで頑張る姿は頼もしく、これからが楽しみです。



書道が好き！

若竹支部 中二

皆 川 恵 里 佳

私は書道が好きです。字が大きくなったり、細くなったり変化して書いているとワクワクして楽しい気分になります。なりたいたいけれど無理だと思っていた特待生ですが、先生が優しく教えてくれたので、特待生になりました。

支部長先生より一言 腕白な弟を連れて皆勤を続ける優しいお姉さん。中学生になってメキメキ上達しました。おめでとう。



達成感

サン支部 中三

渡 辺 彩 乃

私は六月の試験に続き、今回の試験でも特待生となることが出来ました。部活、書道、受験勉強を両立することは、難しいものでしたが、最後までしっかり取り組むことが出来て嬉しかったです。先生には感謝です！！

支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。日頃から熱心に練習している姿は印象的です。高校生活も頑張ってください。



努力の大切さ

茜支部 中三

山 崎 凜 也

僕は習字を通じて沢山の事を学ばせて頂きました。中学では野球部に所属し、二度の県大会に出場でき、両立が難しくても何度も気持ちで挫けそうになりましたが、先生のお陰で特待生に合格できました。有難うございました。

支部長先生より一言 おめでとう「継続は力なり」です。決して諦めないで努力する事は、これからも大事です。頑張ってください。



感謝

虹苑支部 中二

亀 山 美 代 子

毛筆に続き、硬筆も特待生になることができてとても嬉しいです。私は小一から習字を習っていたので特待生になったのは先生のおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもより一層頑張ります。

支部長先生より一言 確実に腕をあげ、硬筆も合格おめでとう。二冠達成の宝物を取得し、この感動忘れずにしてね！



特待生になって

柏心支部 中三

横 山 里 奈

私は小学校4年生から書道を始めました。始めた頃は不安でしたが、だんだんと書道も楽しくなってきました。そして今回、先生や家族、友達の支えがあり、特待生になることができました。ありがとうございます。

支部長先生より一言 合格おめでとう！いつもマイペースで真剣に取り組んでいた姿が印象的でした。今後とも期待しています。



目標達成

皓花支部 中三

北 村 望 実

今回毛筆に続き、硬筆でも特待生になることができました。とても嬉しいです。きれいな字は自分の一生の宝物なので、今後も技術の習得に励みたいです。先生ありがとうございます。

支部長先生より一言 駅伝での頑張りのように、努力を惜しまず研究を重ね書き込みました。望実ちゃん、二冠達成おめでとう。

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

春鳳支部

小五 田中湧大



三兄弟の末っ子、しっかり者で社会情勢に詳しく湧大君。教室では負けず嫌いなところも習字にも現われています。前途有望な彼の背中をあと押ししたいと思います。

瑞祥支部

小五 長谷和佳奈



友とのおしゃべりやチアダンスが楽しいという和佳奈さん。習字の目標は一つでも級を上げる事と控え目ですが、稽古では集中して意欲的に書いています。

照澤支部

小二 有賀航



お父さんが時々様子を見に来てくれます。航君はいつもより張り切って上手な字を書きます。航君は見に来てくれるお父さんが大好きです。また来てね！

瑞祥支部

小三 津秋帆 小六 津秋帆 小三 津秋帆 小六 津秋帆



読書好きで努力家の帆希さんの夢は編集者になる事。おしゃべり大好き、笑顔の可愛い帆希さんの夢は保育士。何事も懸命に取り組み姿勢は共通しています。

汀楓支部

小六 和田朝氣



お父さんが空手の先生で、朝氣君は、茶帯で頑張っています。礼儀正しく、堂々とした字を書きます。休日は御家族で、ツーリングに行かれます。

茅野支部

小四 新津絢野



ソフトボールの選手として活躍し、行動が活発です。習字もびのびとした線質、今後に期待しております。

光ヶ丘支部

小二 高橋航



元気いっぱいなのわたるくんは、すもうの全国大会小2の部門で一位に!!運動会では、リレーの選手!!運動神経が、バツグンです。

仙台支部

小四 鈴木優女



ゆめちゃんは名前どおり優しい女の子です。筆を持つても鉛筆を持つても背筋がすうっと立ち、のびやかな文字を書きます。この調子でがんばってね。

小光支部

小五 八木梨緒奈



書道他アトリエ造形や塾にも通っている八木さんは、伸びのあるスケールの大きな字を書きます。もう少し欲が出てくれれば：“とは私の希望です。”

長寿原支部

小六 我妻由崇



由崇君は左利きの為一年生の時からお稽古に来ております。とても真面目で頑張り屋。弟の面倒を見、勉強する姿は教室の模範生です。期待しています。

虹友支部

小五 白井まみ



真面目でしっかりしたものを持っているまみちゃん。毛筆も硬筆も、もくもくと書き続けます。学校では放送委員や、サイエンスクラブで頑張っています。

中野支部

小四 塩川葉



少年少女合唱団に入り「しゃぼん玉」、「あめふり」など練習中です。ダンス、野球、水泳と頑張り屋の笑顔がステキノ書道の方も今年は県展では金賞受賞。



△漢字条幅▽ 評 樋口 玄山

幸 楓 直線のな運筆、骨力の強さが魅力。

恵 香 堂々とした豊かさ、力強さ。

廣 山 大きな腕の動きが線質の牙えを生んだ。

詠 李 運筆の伸びやかさ若々しさが印象的。

静 翠 構造の確かさ、軽快さを併わせ持つ佳作。

白 葉 墨の生命感、墨気を生かした作。

真 正 正しい筆遣いで丁寧に書いている。

梗 紗 気魄に満ちた作品。筆勢もよい。

△随意条幅▽ 評 中村 巍山

貞 松 漢字、仮名の調和のとれた秀作。

秀 峰 潤濁の変化をつけ作品として格調高い。

花 照 漢字がやゝ大きい若さのある作。

△通信条幅▽ 評 大澤 梢光

立花壮山 運筆に抑えがきき余裕の作。

名久井光扇 形、全体観共にすぐれている秀作。

中島泰慧 芯のある強い線、切れ味ある清冽な作。



基本課題

評 中村 巍山

静 秀 骨力があり、含墨で全体をまとめ重厚。
 統 華 繊細なタッチで、のびやかな線質がよい。
 涼 華 鋭い、正確な運筆がよい。清澄さあり。
 茜 草 一画一画丁寧でよい。更に藏鋒の工夫を。

研究課題

評 大澤 梢光

太 一 筆勢があり、見事にまとめている。
 緑 水 自然な流れで空間の美しい作品。
 恵 爽 大胆な筆致で躍動感がある。
 成 苑 明るく軽快に調和させた秀作。

古典研究

評 宮本 耕成

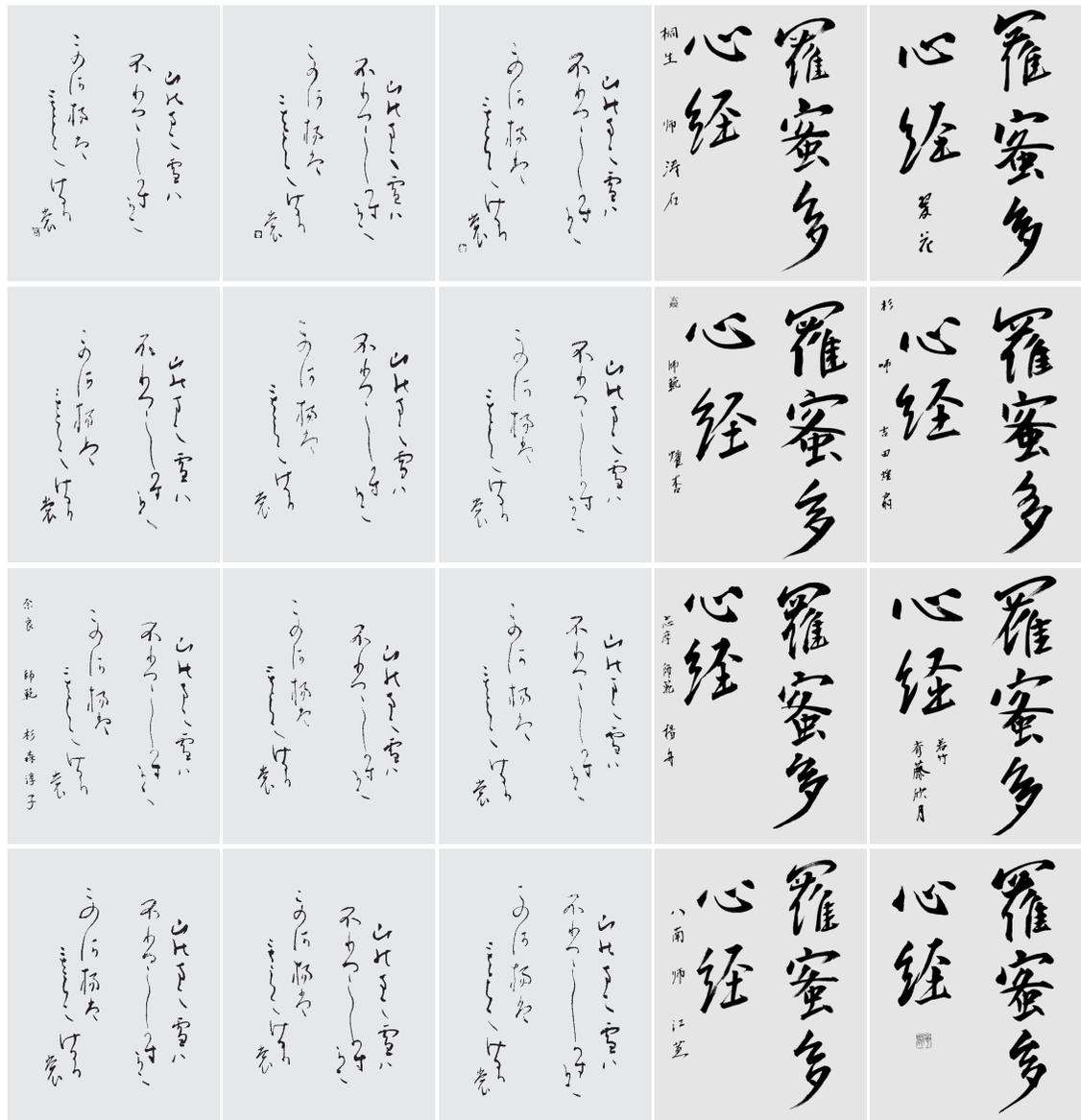
天 遥 墨色美しく、文字中の空間も広く秀作。
 皓 静 抑揚のある変化に富んだ線が魅力的。
 京 江 伸びやかな線で形を忠実にとらえている。
 静 翠 墨量豊かで、躍動感のある線が見事。

師範部

〈行書〉

評 柳澤 玄嶽

長谷川清風 明るく軽快なりズム、形の正確さ見事。
 宿谷硯心 鍊度の高い明快な運筆が印象的な秀作。
 杉本統華 行の流れに貫通力があり、爽やかな作。
 林田翠山 大胆な運筆と懐抱の表現、黒色が見事。
 高平光紗 正確な字形把握、安定した筆遣い見事。
 塚原花瑠 用筆法が巧みで、懐の広い味わいある作。
 武田静淑 伸びやかで律動感に溢れ、余白美も良。
 西潟斉花 写実性に富んだ、軽快で力味のない佳作。



田中翠花 柔らかな筆を自在に使いこなした秀作。

吉田煌扇 豊潤な線で、字形も大きさを感じる佳作。

齊藤欣月 流麗で、動きある筆致、全体構成も見事。

鈴木花仙 正確かつ静かな動き、練度の高い秀作。

川井涛石 細太の変化、暖かみと気品を感じる作。

田上耀杏 手本に忠実で、日頃の精進が窺える作。

大西楊舟 墨量豊かで、鋒先を効かせた流麗な秀作。

佐藤江惠 スピード感に溢れ、写実的で誠実な秀作。

△仮名▽ 評 虎井 曉鐘

笹生芳子 筆力抜群、豊かな線質で墨色も見事だ。

井上雅幸 鈍度に秀れ、線質も細太潤濁が鮮かだ。

荻原梓虹 墨色の変化に富んで、明るく清烈だ。

菅野芋里 大きな運筆で筆勢もあり全体観も大佳。

吉田谿沙 冴えた線質と静かな風格に力量が伺える。

藤牧峰雪 渴筆が効果的で、作品効果に秀でている。

中田秀麗 一字一字を正確、端正に書いて格調高い。

小西琴月 落ち着いた運筆と確かな構成はさすが。

古川琇光 軽快でよどみのないリズムが印象的だ。

白倉貞泉 豊潤、大胆で大きなスケールが魅力的だ。

杉森淳子 曲線の美しさが際立つ品格高い作品。

大菅レイ子 力強い連綿のリズムが心地よい秀作。

<p>中一 鈴木麻理奈</p> <p>伝達</p>	<p>小二 こばやしはるか</p> <p>られくん</p>	<p>小四 野代 菜月</p> <p>春を待つ</p>	<p>小六 雪本彩乃</p> <p>寒中紅梅</p>	<p>中二 李奈菜子</p> <p>表会</p>	<p>学習発表</p>
<p>小六 青山穂香</p> <p>北国</p>	<p>みな小ニころ上 ゆう</p> <p>られくん</p>	<p>小四 梨木</p> <p>春を待つ</p>	<p>小六 優空</p> <p>寒中紅梅</p>	<p>表会 愛心中二 夏</p>	<p>学習発表</p>
<p>えい心 三年 あんがらまい</p> <p>思</p>	<p>三上 ちほ</p> <p>ゆめ</p>	<p>小三 村上祐人</p> <p>色がスガ</p>	<p>小五 大西 希実</p> <p>走れ子犬</p>	<p>手紙 乙訓中一準 永濱和歩</p>	<p>お礼の</p>
<p>小二 やなぎ原 里お</p> <p>見</p>	<p>小一 たかもりゆめ</p> <p>ゆめ</p>	<p>小三 山端 小夏</p> <p>色がスガ</p>	<p>五年 井秋島琉女</p> <p>走れ子犬</p>	<p>手紙 往郷二年 本山駿和</p>	<p>お礼の</p>

学生部

評 小川 仙草

李奈菜子 位置、大きさ、形も素晴らしい作品。

佐藤 夏 点画が正確で形も整った作品。

永濱和歩 キリッとした中でゆったり堂々とした作。

本山駿和 一字一字をていねいに書けている。

雪本彩乃 運筆に力あり形もよく書けた。

宍戸優空 全体のまとめがよく線も強く書けた。

大西希実 スピード感と力強さを表現した作。

萩島琉女 ゆったりとした書きぶりでも形もよい。

野代菜月 漢字を大きく書き、のびやかな作。

高島梨未 大きな腕のうごき、どっしりとした作。

村上祐人 太い線で元気よくかけてすばらしい。

山端小夏 一画一画でいねいがかっちり書けた。

小林晴香 すなおな線でていねいに書けています。

萩野 優 ころろをこめてよくかけました。

上島千歩 きれいなびのびとした線、気持ちよい。

高森結明 ていねいでしっかりとかけてりっぱです。

半紙 随意

評 小川 仙草

鈴木麻理奈 堂々とした風格のある作品。名前も立派。

青山穂香 ていねいな筆づかいで美しくまとめた。

安蒜 舞 どっしりと形よくじょうずです。

柳原里緒 大きくげんきいっぱいにかきました。

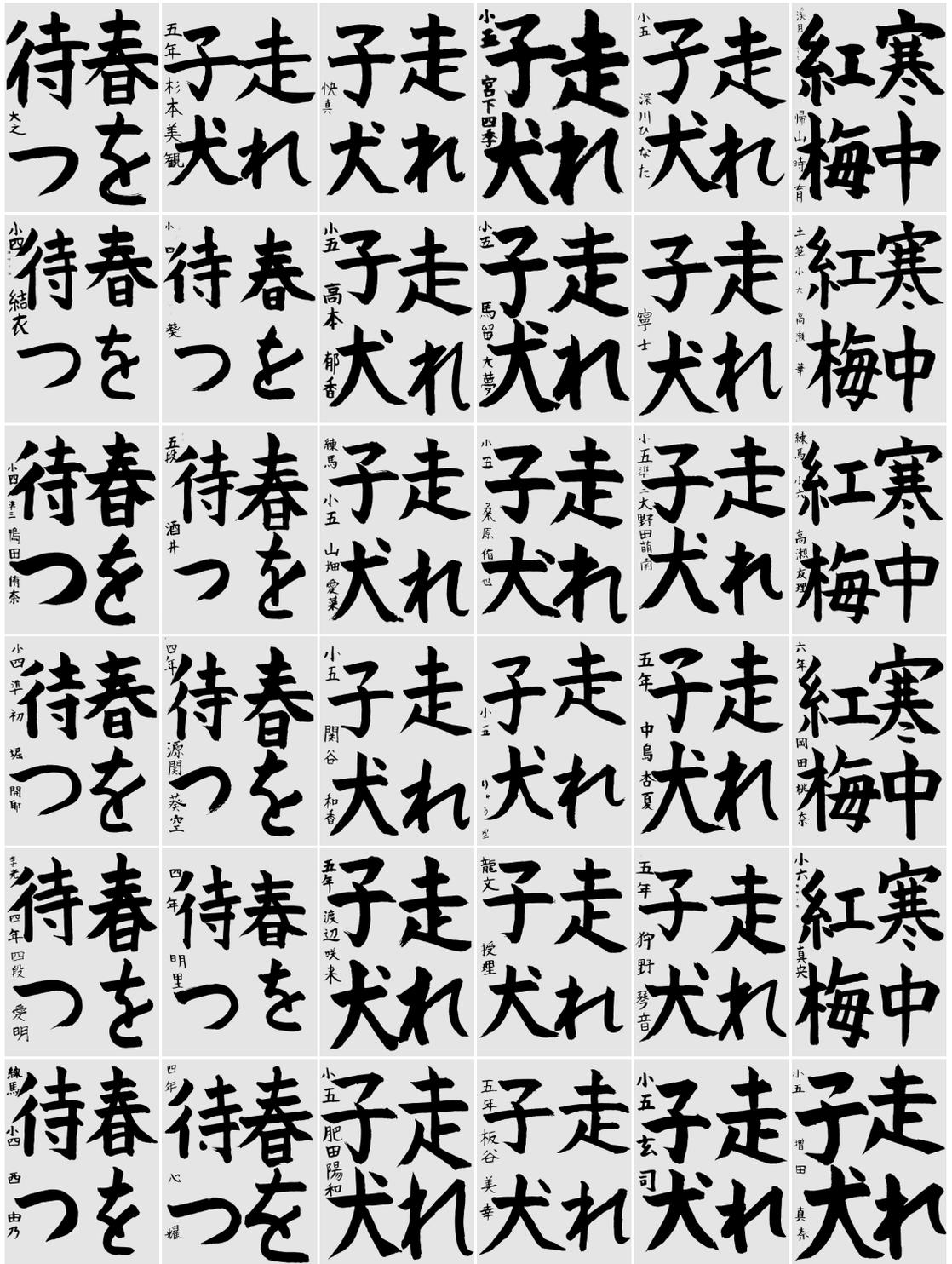
このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

小六 石原 菜花 寒中 紅梅	大阪 七段 宮田 真緒 寒中 紅梅	小六 郷名 近 恵多 寒中 紅梅	船橋 中一 特之 穂 前田 幸鈴 お礼の 手紙	中二 齋藤 真度 学習 発表	三年 小松 崎 俊夫 学習 発表
小六 川口 菜々香 寒中 紅梅	六年 瀬之 仲長 未華 寒中 紅梅	希聖 小六 津五 樹 寒中 紅梅	土筆 中一 石崎 りさ子 お礼の 手紙	中二 小林 勇経 お礼の 手紙	中二 赤松 学習 発表
六年 草 華 寒中 紅梅	六年 夏步 寒中 紅梅	小六 菜々 寒中 紅梅	中一 駒井 心葉 お礼の 手紙	中一 舞香 お礼の 手紙	中二 愛理 学習 発表
六年 平野 美愛 寒中 紅梅	六年 北村 奏 寒中 紅梅	小六 凜 香 寒中 紅梅	中一 菜乃 お礼の 手紙	中一 大谷 悠 お礼の 手紙	中二 深雅 学習 発表
小六 由那 寒中 紅梅	小六 相傳 石井 里奈 寒中 紅梅	小六 塩川 穂乃佳 寒中 紅梅	松戸 樹哉 お礼の 手紙	川崎 風紗 お礼の 手紙	中三 特待生 前野 晴香 学習 発表
久喜 小六 石井 菜花 寒中 紅梅	六年 弘美 寒中 紅梅	六年 相達 和 寒中 紅梅	小六 岩下 彩花 寒中 紅梅	中一 準六 伊藤 誠悟 お礼の 手紙	中二 愛夏 学習 発表

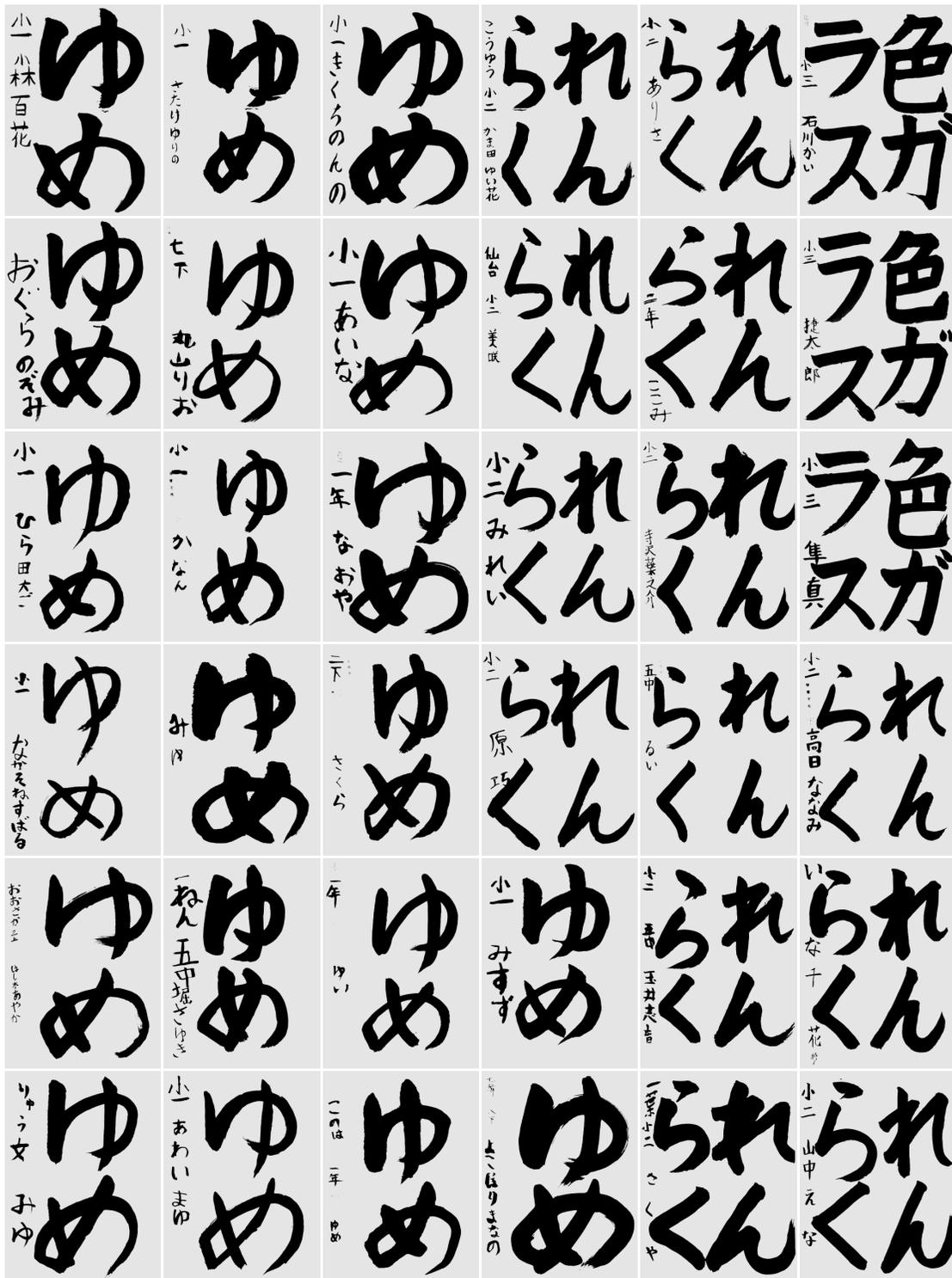
〔毛筆〕
〔中二・三〕
荷葉 小松崎 俊夫
光丘 文野 未桜
秀雪 大平 愛理
玄樸 北川 深雅
皓花 前野 晴香
凜心 齋藤 源慶
硯扇 細貝 愛夏

〔中一〕
玄黙 小林 勇経
上尾 長谷川 舞香
柏心 大谷 愛
高風 川崎 風紗
名東 伊藤 誠悟
船橋 菊田 幸鈴
土筆 石崎 りさ子
北府 駒井 心葉
秀雪 沖山 菜乃
松戸 杉本 樹哉

〔小六〕
倭 岩下 彩花
硯扇 郷右近 恵多
希望 丹圃 菜々
みな 尾崎 菜々
若松 村松 凜香
若宮 塩川 桃々佳
大田 相澤 和
大阪 仲島 真緒
小光 宮田 未華
東陽 細野 夏步
霞墨 北村 奏
葉月 石井 里奈
シ 庄村 弘美
大家 石原 菜花
山象 川口 菜々香
好野 小山 美華
綾華 平野 美愛
久喜 石井 菜花



練馬	李光	名東	山田	華雪	月	山愛	宮地	平成	中野	【小四】	サン	秀雪	平成	須坂	練馬	飯田	成城	珠紅	龍文	汀楓	杉	たけ	りん	光丘	正桂	書之	飯山	雅	倭	高社	【小五】	華雪	硯	練馬	土筆	溪月
西	工藤	堀	鴨田	原口	鈴木	木村	上木	源関	酒井	樋口	杉本	肥田	渡辺	関谷	山畑	高本	中浜	板谷	鈴木	田中	桑原	馬留	宮下	西村	狩野	中島	大野	山元	深川	増田	森本	岡田	高瀬	高瀬	時育	
由乃	愛明	開耶	侑奈	結衣	大之	心耀	明里	葵空	裕美	葵	美観	陽和	咲来	和香	愛菜	郁香	快真	美幸	授理	龍空	侑也	大夢	四季	玄司	琴音	杏夏	田南	寧士	真奈	真奈	桃奈	友理	華			



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|----|------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|
| 龍文 | 大阪 | 若竹 | 茜 | 横二 | 霞墨 | 秀雪 | 皓花 | 華雪 | 石峯 | 静翠 | この | 湊 | 英二 | 書之 | 光丘 | 富貴 | 松聲 | 【小一】 | 有雪 | 仙台 | 虹友 | 一葉 | 美五 | 美二 | 妻科 | 山愛 | 和 | 城彩 | 伊奈 | 華雪 | 【小二】 | 一繪 | 瑞祥 | 北府 |
| 岡野 | 橋本 | 仲宗根 | 平田 | 小倉 | 栗井 | 堀 | 神山 | 黒澤 | 丸山 | 佐竹 | 矢谷 | 山田 | 森 | 熊澤 | 小椋 | 菊地の | 横堀 | 青木 | 川久保 | 吉田 | 鎌田 | 中村 | 玉井 | 小林 | 寺澤 | 坂内 | 大曾 | 山中 | 高日 | 大隅 | 石川 | 嘉倫 | 石川 | |
| 心優 | 彩香 | 梶 | 大心 | 希望 | 真結 | 紗友 | 美倫 | 佳南 | 莉央 | 莉乃 | 結芽 | 柚衣 | さくら | 直哉 | 夏 | のの | 愛乃 | 美鈴 | 美咲 | 美咲 | 唯花 | 朔也 | 志音 | 琉依 | 心美 | 根有 | 紗 | 千花 | なな | 真 | 太郎 | 嘉倫 | 嘉倫 | |

清々しい蘭亭ノ紙多クであった。
人：は出ろし、並らしく、坐り周るの
一ひらびをたうらん。

伊奈 立殿 黒田 茶々子

「冬来たりなば春遠からじ」
やがて冷たい氷も融けて春の
足音が聞こえる。 高社 中一 準七
北原 春

「冬来たりなば春遠からじ」
やがて冷たい氷も融けて春の
足音が聞こえる。 霞屋 中一 上
佐文 阿萌可

寒い冬、岩かげや土の中で多
くの生き物たちが春のおとず
れを待っている。 椿 本 又
星井 明純

冬の朝、にわの葉ぼたんの
花がきびしい寒さの中を
たえています。 美神 山口 準二
小松 柳子

冬の朝、にわの葉ぼたんの
花がきびしい寒さの中を
たえています。 蓮見 優空

白	いう	め	の	花	に	め
じ	ろ	が	ニ	わ	と	ん
ま	し	た	。			

花 二 時 山 岩 村 主 栄

清々しい蘭亭ノ紙多クであった。
人：は出ろし、並らしく、坐り周るの
一ひらびをたうらん。

伊奈 立殿 黒田 茶々子

「冬来たりなば春遠からじ」
やがて冷たい氷も融けて春の
足音が聞こえる。 光丘 中一
阿部 杏生

寒い冬、岩かげや土の中で多
くの生き物たちが春のおとず
れを待っている。 山田 花奈

寒い冬、岩かげや土の中で多
くの生き物たちが春のおとず
れを待っている。 甘利 乙葉

冬の朝、にわの葉ぼたんの
花がきびしい寒さの中を
たえています。 阿部 枝乃

冬の朝、にわの葉ぼたんの
花がきびしい寒さの中を
たえています。 小島 璃子

白	いう	め	の	花	に	め
じ	ろ	が	ニ	わ	と	ん
ま	し	た	。			

花 二 時 山 岩 村 主 栄

私たちは今、過渡期にある。未来が
予測不能だからでなく、何をすれ
ば良いのか見えないから。 丸東 精工
木田 操子

「冬来たりなば春遠からじ」
やがて冷たい氷も融けて春の
足音が聞こえる。 龍野 中三 準五
内田 彩水香

寒い冬、岩かげや土の中で多
くの生き物たちが春のおとず
れを待っている。 武蔵 結香

冬の朝、にわの葉ぼたんの
花がきびしい寒さの中を
たえています。 朝日 中三 準四
甲中里 秘

冬の朝、にわの葉ぼたんの
花がきびしい寒さの中を
たえています。 大野 里紗

冬の朝、にわの葉ぼたんの
花がきびしい寒さの中を
たえています。 坂田 足

白	いう	め	の	花	に	め
じ	ろ	が	ニ	わ	と	ん
ま	し	た	。			

花 二 時 山 岩 村 主 栄

「冬来たりなば春遠からじ」
やがて冷たい氷も融けて春の
足音が聞こえる。 丸東 精工 中三
泉谷 路清

「冬来たりなば春遠からじ」
やがて冷たい氷も融けて春の
足音が聞こえる。 龍文 中三
中村 萌音

寒い冬、岩かげや土の中で多
くの生き物たちが春のおとず
れを待っている。 中三 準六 準七
登間 瑞希

冬の朝、にわの葉ぼたんの
花がきびしい寒さの中を
たえています。 三浦 航太郎

〔硬筆〕

〔一般〕

茜 佐藤 茜沙

伊奈 黒田 菜々子

名東 末田 棕子

玄黙 泉谷 路清

高社 北原 春

光丘 阿部 杏生

静翠 内田 彩水香

龍文 中村 萌音

霞墨 佐久間 萌可

【小五・六】

大内 山田 花奈

華雪 武藤 結香

〔小一・二〕

朝日 田中 里桜

平成 三浦 航太郎

美那 小松 崎利子

大象 阿部 桜乃

有虹 大野 里紗

大田 蓮見 優空

【小一・三】

小島 璃子

坂田 志保

杉花 岩村 志保

皓花 岩村 志保

みなり 岩村 志保

一葉 岩村 志保

華雪・神奈川・霞墨・蒲田・苜蓿会・花連会・北府・希望・曉華・曉山・久喜・蔵・溪月・玄嶽・硯扇・源創・玄樸・玄照・虹苑・皓花・高社・紅竹・高風・虹友・この葉・桜木

Table with multiple rows and columns containing names, grades, and symbols. The table is organized into sections by grade (e.g., 特準, 準, 準二, etc.) and includes various symbols like stars and circles. The names listed include many characters and some are accompanied by their respective grades and symbols.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

桜木・ささなみ・さわらび・サン・山愛・杉月・志摩・シールパス・秀雪・珠城・珠悠・春風・小光・城彩・松聲・知床・新城・瑞祥・杉・須坂・鈴鹿・硯・青雲・正桂・成城・静翠・石巻・仙台

Table with multiple rows of Japanese text, likely a ranking or list of names. Each row contains a series of numbers and names, with some names in bold or with specific symbols. The text is dense and follows a structured format across approximately 20 rows.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

有象虹・有穂・優生・右文・横浜第一・好野・李光・龍文・綾華・凜心・りんりん・麗墨・和・若竹・若葉・若松・若宮・若山・その他

有象虹支部

Main table containing names, grades, and other details for participants, organized in rows and columns.

注意・出品券には、最新の段級位を正確に記載してください。

入会案内

◎「書象」の入会希望者は、いつでも、どなたでも御入会できます。

◎入会手続きは、住所・氏名を明記し、誌代六ヶ月分（三ヶ月でも可）以上を添えてお申し込みください。

◎十人以上とまれば支部を設けることができます。支部には特典があります。本部へお問い合わせください。

◎送金の際、「新入会」「継続」の別を明確にし、何月号からと明記してください。

◎新入会員で書歴（他誌での段級位、書道展における成績）のある方は、相当段級に編入いたしますから、書歴と作品を本部へお送りください。（審査料一体につき一般部一〇〇〇円、学生部五〇〇円）

◎前納誌代は如何なる場合といえども、他の費用に充当、または返却いたしませんので、お含みおきください。

※ 以上の手続きは、個人会員の場合は直接本部へ、支部会員になられる場合は支部長に申し込んでください。

競書出品規定

◎出品部門の種類はつぎのとおり
〈小中学部〉

- ・毛筆規定
- ・硬筆規定

〔学毛〕
〔学硬〕

〈一般部〉

- ・随意〔学随〕
- ・楷書臨書規定（隔月）〔臨規〕
- ・行書臨書規定（隔月）〔臨規〕
- ・仮名規定〔仮規〕
- ・硬筆規定〔一硬〕
- ・漢字条幅規定（隔月）〔条規〕
- ・隷書条幅規定（隔月）〔条規〕
- ・仮名条幅随意〔条随〕
- ・基本〔基本〕
- ・研究〔研究〕
- ・古典研究〔古典〕

※その他の注意

☆出品の際記入の段級位は、翌月号掲載の新しい成績にて出品し、その段級位で審査を受けるわけですが、出品までに翌月号がお手元に届かない場合は、現在までの段級位を書いて「要調」と必ず書き添えてください。（隔月課題はその必要なし。）本部で調査して、昇級していれば書き改めます。段級位に不正があった場合は、掲載後であってもとり消します。

☆多数まとめて出品するときは、部門別にまとめて出品してください。

☆今回出品の成績発表は翌々月号に掲載されます。一般部は部門別発表。小中学部については、支部会員は支部別発表、個人会員は「その他」の欄に発表されます。

☆締切日を厳守のこと。遅着の場合は掲載できません。

☆作品送付の際「書象〇月号競書作品中」と朱書してください。

☆その他、展覧会作品あるいは昇段試験作品等の場合もその旨朱書にて明確にお示しください。本部は連日郵便物が満載になっております。整理に不手際のおきないようご協力下さい。又、郵便物の中に二種類の同封（例えば展覧会の作品と競書作品を同封すること）は絶対になさらないよう、くれぐれもお願いたします。

段級位切り替え表

一般	←	中学	←	小学
		臨楷課題 硬筆課題		毛筆課題 硬筆課題
8級 ←		8級 ←		8級(上・中・下)
		7級 ←		7級(上・中・下)
		6級 ←		6級(上・中・下)
		5級 ←		5級(上・中・下)
7級 ←		4級 ←		4級(上・中・下)
		3級 ←		3級(上・中・下)
		2級 ←		2級(上・中・下)
6級 ←		1級 ←		1級(上・中・下)
		特1級 ←		特1級
		特2級 ←		特2級
5級 ←		準初段 ←		準初段
		初段 ←		初段
		準二段 ←		準二段
		二段 ←		二段
4級 ←		準三段 ←		準三段
		三段 ←		三段
		準四段 ←		準四段
		四段 ←		四段
		準五段 ←		準五段
		五段 ←		五段
3級 ←		準六段 ←		準六段
		六段 ←		六段
		準七段 ←		準七段
		七段 ←		七段
		準八段 ←		準八段
		特待生 ←		特待生

※注意

- ・ 中学を卒業して一般に移行する方の毛筆課題の段級位は、臨書楷書課題へのみの、上の表の通りに移行し、4月からは切り替えた級位で出品して下さい。臨書行書課題や仮名課題への移行はありませんので、級位は「新」として出品して下さい。
- ・ 小学生から中学生への級位切り替えはバーコード出品目録で自動的に切り替えます。(編集部)

書象会便り

◆第79回謙慎書道会展に三九三名が出品

標記の最終選考会が去る一月二十九日武蔵野スイングホールで開催され、審査の先生方が一点一点確認され、出品手続きを完了しました。

〈漢字部〉

○副会長	一名
○副理事長	一名
○常任理事	三〇九名
○評議員	一五九名
○公議	九一名
○かな部	
○公理	一名
○公募	一名

☆第65回大田区書道連盟会員書展
 会期 三月十五日(水)～十九日(日)
 会場 大田区民ホールアブリコ
 出品者 鈴木花仙(本会関係)

☆第19回蘭の会書展

会期 二月二十三日(水)～二十七日(月)
 会場 阿佐ヶ谷区民センター
 出品者 大賀霞泉 本橋芳月(本会関係)

平成29年度 書象会夏季合宿錬成会

会場 千葉県 富浦ロイヤルホテル
 会期 平成29年9月2日(土)～4日(月)
 定員 250名(6月より受付開始)
 その他 ホテル内に広い錬成場を提供していただきました。

詳細は5月中旬にお知らせします。
 〈研修部〉

出品券について

作品記載の段級位と出品券の段級位が、コンピューター登録の数字と一致しない作品が、毎月百点以上あります。
 この調査が重い作業になっていきますので、出品券には正確にご記入下さい。

発行人 (有) 書象
 代表 上 條 節 夫
 〒東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
 郵便番号180-0001 電話〇四三(五三)九七四三
 振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一
 振替名義 (有) 書象
 印刷所 株式会社 リンクス